

三股みまた

三股町の人口	
4月1日現在	
男	7,046人 前月より +45
女	7,908 +52
計	14,954 +97
世帯数	3,892戸 +19



特集

私たちの三股町……が

……歩いてきた建設のあと

十年間を振り返って 建設費実に二十四億六千万円

私たちの三股町は、全町民の声を背景として、その理解と協力のもとに、よりよき明日の繁栄を求めて、より充実した福祉の町へと常によどむことなく前進を続けております。

その躍進ぶりは、今や県下に雄をなし、全国的にも高いレベルにあると言っても過言ではないでしょう。このようにことここにいあったのは、私たち全町民が協和の体制のもとに、あまたの障害にも屈せず、融和団結、勇断による成果ではないでしょうか。

私たちは、これからも、より飛躍的な発展を求めて進むために、ここに私たちの歩いてきた過去十年間の足あとを振り返ってみることも又意義あることではないでしょうか。

過去十年間に投入された建設関係の工事費を調べてみますと、河川改修、県道整備費等含めて、次の表に

もありませんように実に二十四億六千万円というおどろくべき数字を示しております。

10年間に要した工事		費用
		万円
路川	97,000	
道河	49,000	
災害復旧	12,000	
住宅	27,000	
教育	23,000	
福祉	8,000	
水道	10,000	
農業	20,000	
合計	246,000	

それでは、以下順を追って振り返ってみることにしましょう。

道路

伸びる町道舗装

すでに四万メートルが

道路は、産業経済の基盤として、終始町政の柱の一つとして積極的のその整備遂行をはかって、それに要した経費もほう大な数字にあがっているようです。

現在県道の舗装は、約二万一千メートルに達し、町道の舗装延長は、近年急速に伸びて約四万メートルが舗装成っております。

道の改良舗装には、都市計画事業、町単事業などに約二億三千万円をつぎこんでおります。

都三道路は、幅員11m、町内延長2,350m、これを町単事業として、昭和34年度より工費3,800万円と7年の才月を費して、昭和40年度に完成した。



都三道路は、幅員11m、町内延長2,350m、これを町単事業として、昭和34年度より工費3,800万円と7年の才月を費して、昭和40年度に完成した。



都城北郷線は、昭和39年に主要地方道に認定、以来整備は急ピッチ。昭和45年度までには、大野まで完全舗装化される。



川のはん蓋は、今いづこ。写真は、岩下頭工。

災害復旧

災害復旧については、1億2千万円を投入して、耕地災害 178か所、土木災害 14か所の復旧完成を見ております。

着々復旧なって、災害は二度とくり返さず。

河川

沖水川床固、えん堤

三十九カ所が完成

河川改修については、積極的に建設省に働きかけて沖水川床固、えん堤工事等二十九カ所を完成、それに高畑川改修約九百カ所が完了、これらに要した事業費は約四億九千万円の数字を示しております。



高畑川も美しい川へと姿を続けている。



住宅

町営 五百二十五戸を保有

公営住宅建設は、町政の重点施策の一つとして、鋭意その建設に意を注ぎ、現在すでに五百二十五戸の町営住宅を保有して、これは、町村としては県下最大を誇っております。

その建設費は、二億七千万円の多きにはなっておりません。

「一世帯一住宅を」して「文化的な生活をどうぞ」をモットーに町営住宅は建てられている。



塚原団地には、115戸が立ち並ぶが、明るい環境の中に、明るい声に満ちている。

教育

校舎鉄筋化は進む

公民館活動も活発

学校施設は過去十年間に一億八千万円を投じて三股小、三股中鉄筋化、東中、勝岡小体育館、ついで先に完成した三股小体育館であるいは各小中学校プール、そして給食センター、その他各施設など整備充実されております。

社会教育も学校教育と併行して活発に推進して、公民館活動については、今や全国的な先進地として視察来町者が後をたどませんがその拠点としての各地区公民館建設に努力が傾注されてきました。



年の練成道場に、その他各種の集会にも大いに利用されております。これらの建設費は約五千万円になっております。

三股中鉄筋校舎は、昭和42年度に12教室が成り、更に今年度も増築される。

また町体育館も昭和三十一年に建設されて以来青少年に活用されております。



町体育館は、工費 2,100万円建てられ、その利用度は高く、存在価値は高く評価されている。

水道

普及率 九十四%

水道は、昭和三十六年に中央地区を、三十九年に北部地区をそれぞれ簡易水道として布設し、その後需要増大にともなう上水道に変更充実し、現在水道普及率は、九四、三%で、ほとんどの家庭が水道の恩恵に浴していることになりました。

その建設費の総額は、約一億円に達しております。



福祉

保育所は

町内全域に配置

「ゆりかごから、墓場まで」の福祉行政は一貫してながれております。まず保育施設として年次的に町内各地区八か所に建設されております。

また昭和三十七年に老人ホームを、昭和四十三年には老人福祉センターを建設して福祉施設は、着々充実整備されております。これらには総額約八千万

円がつぎこまれております。

この外一市三町による都北衛生センターも一億一千万円をかけてすでにほぼ完成の域にあるようです。

その他昭和三十八年より老人クラブの結成育成をはかって、現在二十六クラブ約千二百名の会員にふれております。

また樺山、夢池納骨堂も完成し、新馬場納骨堂も近く竣工の域にあり、その他の地区も建設準備中といったところで。



「おとしよりに楽のしいこの場を」と43年度に建てられた老人福祉センターは、連日笑いと歌声が聞える。

農業

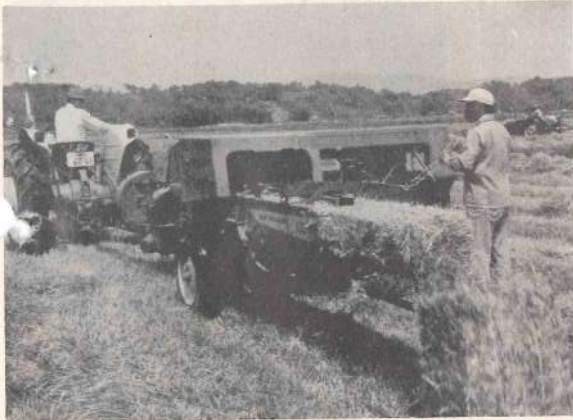
農業近代化にも全力投球

本町は、昭和三十三年から三十五年にかけて農山村振興対策事業によりみかん防除施設、集乳所等を設置し更には三十七年から四十年にかけて家畜管理所農道整備などを

南九州防災営農事業で実施 しております。

農業近代化は、急ピッチ。集団化、協業化の方向にある。

放牧場は昭和四十年に開設、四十町歩毎年四、五十頭が放牧されている。



保育所は、町営八か所、私立三か所があり、対象児のほとんどが通園している。

ついで三十八年から四十年にかけて農業構造改善事業にふみきり、基盤整備、籾乾燥施設、集乳所、家畜管理所、共同施設場などを建設しております。

また酪農とみかんを基幹作物として強くこれを推進しております。

その後生活パイロット事業、開拓パイロット事業などを実施しております。

これら一連の農業近代化に要した事業費は二億円有余にのぼっております。